

# 南国病院広報誌

第32号 2017年4月28日発行



# つくし



日本医療機能評価機構認定病院  
初回認定 2011年8月5日  
3rdG: Ver.1.1 更新認定  
主たる機能: 慢性期病院  
副機能: 精神科病院

## ■発行元■

南国市大涌甲 1479-3  
医療法人つくし会 南国病院  
Tel (代) 088-864-3137  
Fax 088-863-3070  
<http://www.nankoku-hp.or.jp>



## 平成29年度を迎えて

医療法人つくし会 理事長

南国病院 院長 中澤 宏之

初夏を思わせる爽やかなお天気が続きますが、新年度を迎えて、皆様には新たな気持ちでご活躍のことと思います。平成29年度を迎え一言ご挨拶を申し上げます。当院はこの4月で無事開院48周年を迎え、去る4月19日には開院記念行事として院内発表会と祝賀会を

開催し、いずれも盛況のうちに終えることができました。48年間という長い間当法人を継続、発展できたのは職員や地域の皆様のご支援の賜物と感謝しております。昨年9月に亡くなった前理事長が「つくし会」という名前に、自分の成長と共に人に尽くす医療を目指す、という思いを込めて当院の理念としましたが、当院の理念、専門性、働きやすい職場環境を選んで下さる方が増え、今日に至っていることを大変嬉しく思っています。

医療従事者の確保が難しい昨今の情勢の中、この1年間で20名の新規採用者をお迎えすることができました。医局の人事としては、1月から麻植啓輔先生、4月から非常勤医師として速瀬啓純先生をお迎えすることができました。お二人とも専門は消化器内科であり、当院内科の診療体制がさらに充実することとなりました。お二人の専門性、お人柄、患者様へのきめ細かい診療、他職種との積極的な連携により早速チーム医療の更なる推進が図られています。今後は、神経内科、精神科、内科を三本柱とする地域の専門病院として、院内外の連携を重視した地域医療が提供できるよう努力して参ります。

開院記念祝賀会でご案内した通り、この度中澤澄子理事より当院へ奨学資金の寄付がありました。前理事長は開院当初から、職員が働きやすい病院にしないといけない、病院には一人一人の職員とその家族を含めて支援する責任があると申しておりました。当院で勤務する職員の方々が安心して働き、研鑽を積み、どの方向性であっても自らのキャリア形成を成し遂げられるよう引き続き支援、協力していきます。その一助として、職員の皆様の学術研修、福利厚生にこの奨学資金を使わせて頂きます。

毎年4月は新たな職員を対象とした新人集合研修会や開院記念行事が開催され、新しい仲間をお迎えした我々もフレッシュな気持ちで志を新たにすることができます。当院の一番の強みであるチーム医療に新たな仲間が加わり、各部署で自分らしく活躍して下さることを期待しています。厳しさを増す医療情勢の中、地域のこれからの医療需要を見極め、それにしっかり応えられるよう職員一同努力して参りますので今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。今年度が当院と皆様にとって飛躍の年になりますようお祈りいたします。

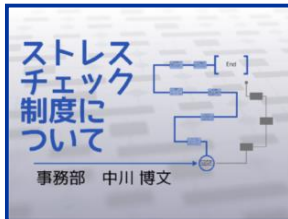
## 第6回 開院記念 院内発表会

在宅医療支援センター  
センターホール  
H29.4.19(水)



第1部座長 薬剤部長 川添 哲嗣

僭越ながら、第一部の座長の立場から報告および感想を述べさせていただきます。



2015年からスタートしたストレスチェック制度についての目的や取組のポイントについての解説でした。当院でも高ストレス者へのフォローはきちんとなされていましたが、発生したストレスの削減対応はもちろん大切ですが、今後同様のストレスを生まないためには発生原因の根本的解決こそが大切なのではないかと感じました。事業主や部署長は我が身のストレスもあるでしょうけれど、襟を正してこのことに真摯に向き合う必要がある

と考えます。

レスパイトケア入院を  
される患者家族への  
インタビューを通して

2病棟看護師  
石川 裕子

神経難病病棟におけるレスパイトケア入院をされる患者さんの家族（主たる介護者）に対して聞き取りし、在宅介護の現状と病棟看護師に求めるものについて検討した「質的研究」の結果を報告されていました。良い点はもちろんのこと、これからの課題や強化点などが明確化されたのではないのでしょうか。難しい質的研究をきちんと手順に沿ってまとめられている大変すばらしい発表でした。



認知症と  
その他の精神疾患が  
混在した病棟における  
対応と課題

～アンケートによる実態調査を通して～

5病棟看護師 小松 匡輔

患者の高齢化に伴い認知症関連疾患の入院患者割合は年々増加しています。精神疾患病棟でも認知症関連疾患患者率は増加傾向です。高知県下で同じように混在病棟となっている病棟に勤務する病棟看護師232名に対し、この課題に対する実態アンケートによる調査でした。非常に興味深く意義深い調査であり、課題や対策を他施設と共有することは、今後のより良いケアにつながっていくと感じました。また「混在することは問題ではなくむしろお互いへの良い刺激になる」とする意見や、「いずれの疾患も精神的安定を得る最重要ポイントは環境調整である」という調査結果も見事な着眼点だと思います。

抗精神病薬の減量  
および  
置き換えスケジュール  
提案の取り組み

薬剤部 薬剤師  
椎葉 貴行

長期的な多剤大量投与処方となっている患者さんに対しての減薬アプローチについての方法と結果の報告でした。少しずつ減薬するSCAP法をベースに、医師と薬剤師がしっかり減薬計画をたて、途中の心身状態の観察しながら減薬を実行していった結果、多くの患者さんで成功したわけです。患者さんにも大変喜んでいただけました。今後も続けていくべき素晴らしい取り組みだと思います。

当院の  
職員健診結果の動向  
一肥満・喫煙・高血圧症・  
睡眠について

外来看護主任  
西野 光世

平成28年の職員健診のまとめから見えてくる考察を発表されました。当院では異常なしは8%でしたが、何らかの疾患で治療中の方は26%でした。他の事業所と比較してどうかは不明ですが、今後当院内での異常なし%は上げ、治療中%は下げたいですね。そのためには喫煙率と肥満率を下げる必要があります。これは現在どちらも夜勤者のほうが率は高いようです。夜勤では十分な睡眠がとれないですし、睡眠リズムも狂いますからストレスが影響してくるのかもしれませんが、そうすると演題1と連動しますが、夜勤者向けに快適な休息空間を構えることも事業主として考えるべき課題なのではないかと個人的には感じました。

もっとも肥満も喫煙も個人の自覚が最重要ポイントです。みなさんいい大人なので、ごちゃごちゃ言い訳せずに、しっかりと自己管理のもとで健康的な生活を心がけましょう。